

多摩ブデポ通信 第5号

NPO共同保存図書館・多摩 調布市深大寺北町一―三―一

八

2007年12月29日発行

●depo_tama@yahoo.co.jp

●郵便振替 00170-8 - 610534

●HP / http://www.geocities.jp/depo_tama/index.html

特定非営利活動法人化に 向けた設立総会が 行われる!

去る11月18日、国分寺市立いずみホールにて、『NPO法人共同保存図書館・多摩』の設立総会を行いました。当日は、24名の方々に参加していただき、設立総会は無事に終了いたしました。

設立総会はNPO組織が、法人化に向け必ず行わなければならないとされているもので、設立趣旨書、定款、役員、事業計画や予算など基本的な事項を審議し決定するもので

す。具体的には次の各議案が審議され、ここで決定された内容をもって特定非営利活動法人の設立認証申請を東京都に行います。

第一号議案 議長の選任
第二号議案 法人の設立について(設立趣旨書の確認)
第三号議案 法人の定款について
第四号議案 設立当初の役員について
第五号議案 設立当初の資産について
第六号議案 事業計画及び収支予算について

第七号議案 設立当初の会費について

第八号議案 確認書の確認(暴力団等ではないこと、宗教活動や政治活動を主目的としないことなどの確認)について

第九号議案 法人設立認証申請(設立代表者や役員就任承諾書の提出等)について

当日に、議論となった点は第三号議案の定款に関することで、総会時における委任状について明記することでした。それ以外の議案については、特に異論は出ず満場一致で可決されました。

なお、法人の役員について、今の「NPO共同保存図書館・多摩」の理事メンバーが全員就任することが確認され、理事長に座間直壮氏、副理事長には平山恵三氏が選出され

ています。

この設立総会を受けて、12月14日に東京都への申請書を郵送で提出し、17日に受理されました。申請を受けて東京都での審査が始まり、明年4月には認証決定される見込みで、法務局にて法人設立登記後、正式に「NPO法人共同保存図書館・多摩」が成立することになります。

法人化は、責任ある事業体として活動するためには不可欠なことであり、将来、自治体から保存図書館の管理・運営を任せられるためにも必要な通過点となります。

正式に法人が成立いたしましたら正会員(社員)・賛助会員の募集を行います。その折には、多くの皆様のご参加をお願いしたいと思います。

全国図書館大会

第13分科会 資料保存

テーマ「地域で資料をどう残すか」

10月30日 東京

事例報告「NPO共同保存図書館・多摩の活動について」

報告者 田中ヒロ
(理事・事務局)

共同保存図書館がこの分科会で取り上げられたのは二回目です。二〇〇三年の静岡大会で、「多摩むすび」から事務局の吉田光美さんが報告しています。それから五年、任意団体のNPOではあるが、百四十名近くの会員を迎えるまでになった「多摩デポ」の経過と現状を報告しました。

東京都市長会が広域連携の一例として図書館資料の共同

保存を提案し、東京都市町村立図書館長協議会が「共同利用図書館」について調査研究に取り組むという新しい動きの中で、「多摩デポ」の活動も新たな展開が求められていること、都立図書館の大量除籍の反対運動にとどまらず、地域の図書館の資料保存・廃棄問題に具体的な対応を模索し、ボランティア活動にも取り組んでいることなど、話したいことは盛りだくさん。

原稿も書いて行つたのについて思いがあふれ、都立問題や「5万冊」のことなどあちこちに話が飛んで、まとめきれないまま時間オーバー、質問を受ける時間がなくなつてしまいました。(反省！)

その他の報告は「地域資料に関する全国アンケート調査報告」(松本市文書館 小松芳郎氏)「県域での資料保存の試

み」(埼玉県図書館協会資料保存委員会 鳥海睦美氏)「市民活動資料・情報センターをつくる会の発足と活動」(同会 山家利子氏)で、図書館大会では珍しく市民の動きが大きく取り上げられた会でした。

また、午前中には資料保存委員会委員長によるレビュー「資料保存をめぐるこの一年」があり、昨年10月から一年間の日本図書館協会メールマガジンから、資料保存に関する記事を拾い出して一覧表にした資料が配布されました。全部で一〇一件あり、そのうち「多摩デポ」の記事が六件、名前は出ていないけれども関わりあるものを含めると七件ありました。小さな団体ではあるけれども、資料の共同保存に関する大きな情報を全国に向けて発信してきたのだと改めて感じました。

認証申請あれこれ

認証申請前に都のNPO法人係に事前相談にきました。最初は任意団体として発足するより前のことです。「図書館のため」の活動は「特定の団体のための活動」になる、「市民のため」であることが必要という指摘にびっくり。公立図書館のためは市民のためというのがNPOの法解釈の上では常識ではないと知り、目からウロコ状態でした。直近の相談でも、二名の担当者から特定非営利活動であることの確認(特に目的と事業の種類や運営手続きが法律に基づいているか、形式的な不備が無いのか、厳しいチェックを受けました。法人になることには責任が伴うことを改めて実感しました。

江森・田中・吉田

「平成19年度 関東地区公共図書館協議会 市区町村立図書館運営研究会」に参加して

報告者 座間 直壯
(理事長)

関東ブロック研究会は「図書館は記憶する―未来への資源共有に向けて―」をテーマに、10月18日～19日山梨県甲府市内のベルクラシック甲府で約百二十名の参加者を集めて開催されました。

資料保存や資源の共有などがテーマということで、「共同保存図書館構想」をかかげて活動をしている団体として、事例発表の依頼をいただきました。

私たちにとっては事例というより共同保存の思想を広く図書館界に知っていただく絶好のチャンスと受け止め、

引き受けることとしました。研究会の内容は次のようなものでした。

①基調講演は「資料保存とはどういうことなのか―利用のための資料保存―」をテーマに郡山女子大学短期大学部教授の二宮嘉須彦氏が資料(紙・フィルム・デジタルなど様々なメディア)の劣化や保存性、耐久性などについての講演がありました。

②事例発表として「多摩の共同保存図書館構想」についての私の発表と、「神奈川県立川崎図書館における科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」の活動事例について、神奈川県立川崎図書館科学技術文献課長の齋藤久実子氏の発表がありました。

③研究協議として「地域の図書館は何を伝えていくか」をテ

ーマに県立塩山高等学校の福岡哲司校長、身延町立図書館の保科貴子司書を加えてのディスカッションがありました。

今回の研究会の趣旨は、「図書館は地域の情報拠点として人々の知的生産物を蓄積・整理し、社会の共有財産としている。また、年月の積み重ねで築かれるコレクションによって、貴重な知的資源を後世に継承し、将来に向けて提供することを担ってきた。しかしながら、この役割は必ずしも社会全体に認められているとはいえず、増加する資料の収蔵場所の確保や、収集・蓄積した蔵書の維持が困難な状況も見られる。この研究会では、資料の保存について考え方を確認し、連携・協力して共同で行う資料保存について、その可能性を研究・協議する。(抜粋)」とあります。

私は、この趣旨を受けて各図書館で収容しきれなくなってきたいる所蔵資料の現状をどの様に打開するか、また、図書館ネットワークの仕組みの中で第一線図書館と二線図書館の役割分担を明確化させ、資料保存の基本的な仕組みづくりについて、多摩地区の図書館の歴史に触れながら説明をし、「NPO共同保存図書館・多摩」の発足経過やこれまでの活動、そして多摩の図書館長協議会の動きや東京都市長会の広域連携の提言における図書館資料の共同保存構想の内容などを説明しました。

NPOが目指す共同保存図書館は未だ構想の段階なので具体的な話は出来ませんが、図書館の資料保存の重要性をアピールする集会や市長会の支援を受けて多摩の図書館長協議会が多摩地区の図

書館調査を開始した内容など
徐々にではあるが少しずつ前
進している様子は理解していた
だけだと思います。

2日間をとおして各図書館
が抱える資料保存問題の大き
さを改めて掴み取ることが出
来ました。有意義な研究会に
参加させていただいたことを感
謝いたします。

☆文献案内★

●出版ニュース

2007年11月中旬号

「NPO共同保存図書館・多
摩の新たな展開」田中ヒロ

●ず・ぼん13号

2007年11月発行

「共同保存の意義を考える」
NPO共同保存図書館・多摩
一年の歩み—シンポジウムの
記録

フィンランドにおける共同
保存図書館

加藤 裕史

(立川市図書館)

9月2日〜12日まで図書
館計画コンサルタントの「フ
インランドの図書館に学ぶ
旅」に参加して、フィンランド
南西部(エスボー市・タンペ
レ市・ヴァーサー市等)を中心
に公共図書館の見学をして来
ました。行く直前の「多摩デ
ポ」の事務局会議で、フィン
ランドにも保存図書館がある
ことを知りました。旅行の団
長に聞いて訪れたかったので
すが、場所がヘルシンキ郊外
にあるとのことで、訪れられ
ませんでした。しかし図書館
見学初日に教育省からの話が
あり、そこで保存をどのよう
にやっているのかを聞くこと

が出来ました。

クオピオに「The Na
tional Depository
Library」

(国立保存図書館)がありま
す。全国の図書館を対象とし
た稀用図書の共同保存図書館
で、国立保存図書館法により
教育省管轄の国立機関として
1989年に設置されていま
す。面積3000m²・棚延長
30km・職員21名で、図書2
6万5000冊・雑誌1万2
000種が保存されています。
仕組みは、公共図書館からの
除籍資料だけでなく、大学
図書館からの除籍資料も受け
入れているとのことでした。
また、全て受け入れするので
はなく、各図書館から送ら
れた資料を職員が毎週選書会
議を行って受け入れるとのこ
とです。

フィンランドの公共図書館

は大きい図書館が多く、ラハ
ティ市立図書館で保存書庫を
見学してきました。話を聞く
と、古い資料は今ほとんど
をクオピオの図書館に送って
しまうとのことでした。古く
なった資料でクオピオに送ら
ないという資料は、どの館で
もカウンタ―近くで市民に安
く販売していました。

私は、国が共同保存図書館
を持って公共・大学図書館の
資料を保存していく仕組みの
凄さに、日本とは大きな違い
を感じました。「NPO法人共
同保存図書館・多摩」の設立を
通して、日本初の公共図書館
での共同保存図書館を成功さ
せたいと思いました。

法人になるにあたって、

〈多摩デポ〉のシンボルマー
ク、ロゴ、使い続けたいパ
ーンのマークなど募集

第22回山梨県図書館大会

からお誘いを受けました

平山恵三

(副理事長)

大会は、去る11月30日(金)9時30分から16時20分まで、山梨県北杜市の北杜すたま森の図書館で開催されました。県内図書館関係者の多い大会でしたが、利用者の飛び入りもあり、参加は一人三名になったそうです。午前中は記念講演があり、午後は二つの分科会に分かれて、「図書館をもっと身近にーいま求められる図書館サービスとは」というテーマのシンポジウムと、「活用を促す利用教育」がテーマの報告・意見交換が行われました。私は、このシンポジウムのパネラーとしてお誘いを受けました。

私が、開催地の北杜市に住

むようになっていたことと、北杜市、甲府市、山梨県立図書館の利用者の一人であったことのほかに、私が多摩デポにかかわっていることが知られておりましたことが、今回お誘いのきっかけになったものと存じております。

私は、いまから8年ほど前に、山梨県立のレファレンス・コーナーでいただいた思いもかけなかったサービスマス(佐久間達夫校訂『伊能忠敬測量日記』全7巻、大空社、一九九八年刊行、の貸出)が、多摩中央(当時)信用金庫を辞めてフリーになってからの私の人生の、またはちよっぴりライフワークの、いわば扉を開いてくださったという貴重な体験があります。そのことは、会場でも一言お礼を申し上げました。

また、私は、全国のたぶん

百五十くらい市の市町立図書館を訪ねていまして、そこでいただける、地域資料についての分け隔てのない、一生懸命のサービスにかねがね感謝しておりますので、そのことにもちよつと触れました。

そして、ポイントは、事前の打ち合わせで義務とされておりました、山梨県の図書館への要望になりました。

私は、立川市の最新の図書館事業報告書の長期利用統計の一部を紹介させていただきながら、公共図書館は大人の利用が増えていると思いますし、これからはますますそうなると思いますと申し上げ、大人の図書館への方向付けを要望しました。そして、大人の図書館利用は、児童の利用と違って、きわめて多様であるろうかと存じますので、大人の図書館への対策は、何をお

いても先ず、蔵書の格段の充実ということであろうかと思えますと申し上げました。蔵書が豊富になれば利用もまた増えるという循環が生まれると思うという趣旨のことも申し上げました。

転居先でそう言える機会をいただいたことに私はとても感謝いたしました。

NPPO化する多摩デポにお力をお貸しください

ホームページの充実のための技術のある方、

デザイン・シンボルなどの

絵心のある方、

ボランティア作業者も引き

続き、

募集しています

保存対象外資料を

《もう一花咲かせる》

ブックリサイクル

木谷 真貴

(武蔵野市図書交流センター)

都立図書館除籍資料5万冊の分別作業から一年半後の今年7月、武蔵野市図書交流センターに再びボランティアと図書館職員が集まり、4〜7門の再整理作業と各図書館による選書が行われたことは、4号でご報告しました。

保存対象外資料の活用は当センターに任せましたが、次の再整理作業のためにも、できるだけ早く書架を空ける必要がありました。当センターでは、寄贈資料を使ったブックリサイクル(会場は武蔵野市立中央図書館前広場・本

は無料で提供し、会場で児童福祉支援などの募金活動を行う)を過去に四回実施し、約1万冊を市民の方々に直接提供してきましたので、保存対象外4〜6門約6400冊も、10月後半の土日、四日間のブックリサイクル「武蔵野・本がくるくる3」で提供することにしました。

ただし当センターのブックリサイクルは寄付金を募るという性質上、当市図書館除籍資料リサイクルとは一線を画すようにしてきましたので、「図書館の本」を提供するリサイクルは初めてです。さらに都立資料にはバーコードや背ラベルに加え磁気テープも付いていますので、現役の図書館資料と混じってトラブルの生じることの無いようとても気を使いました。バーコードを隠すラベルと磁気テープ

が本の中に残っていることを説明するシールをパソコンで印刷し、すべての本に貼りました。本の中に督促ハガキなどの個人情報が入っていないか、ひどい落書きなどがなければ一冊ずつチェックし、表面の汚れを落としました。

自然科学分野はともかく、技術工学、産業分野の本は、素人目におもしろそうなものばかりではありません。どれだけ持ち帰られるか不安はありませんでしたが、お客様の目に触れない限り再活用の可能性はゼロですから、すべてを提供するよう準備しました。都立三図書館と多摩地域の全公立図書館にもポスターをお送りしましたが、皆様のお目には留まったでしょうか？

二週目の土曜日が台風接近と重なってしまいました。四日間を通して会場の反応は

上々で、多様な資料が持ち帰られ(約64%、4000冊近く)、募金も7万8418円集まりました。会場から専門書を持ち帰られたある法人理事から後日、法人図書室で活用する資料の追加引取の申し込みがあるなど、当センターの他の資料の有効活用にもつながりました。

1月には2回目の再整理作業(3門)が行われますが、3門の保存対象外資料も来年度のブックリサイクルで広く提供したいと考えています。またお知らせいたしますので、ぜひお越しください。

長い道のりをたどってきた本たちが、もう一花を咲かせます！



都立図書館再活用資料

仕分け作業(第2回目)

への参加の呼びかけ

6ページに木谷さんに書いていただいた武蔵野市図書交流センターで保管されている都立図書館除籍図書Ⅱ市町村立図書館長協議会保管資料の、次の仕分け作業が、館長協議会共同利用図書館検討委員会から呼びかけられています。稀少図書の共同利用と除外図書の武蔵野市移管にむけた2回目の仕分けです。

作業日は1月10日(木)および1月23日(水)で、両日とも市町村立図書館から出張参加する図書館員との共同作業となります。

ボランティアとして参加いただける方は事務局まで、ご連絡ください(電話090-9385-5723)。

ティア保険を掛けること、交通費込みの若干の日当は「多摩デポ」から支給できます。(今回はあまり大掛かりな規模の作業ではありません。)

◎第1日 1月10日(木)

(4〜6類の未重複本・複本1冊本の箱詰め)
(3類の箱開け)

◎第2日 1月23日(水)

(3類の短冊挟み込み、複本0冊本への保存シール貼付)

場所

武蔵野市図書交流センター

武蔵野市桜堤一―七―二五

(旧)桜堤小学校3階

電話

0422-54-5686

作業時間

9時30分〜16時30分

多摩地域図書館大会

第二回まもなく開催!

市民に開かれる公立図書館の研究と交流の場

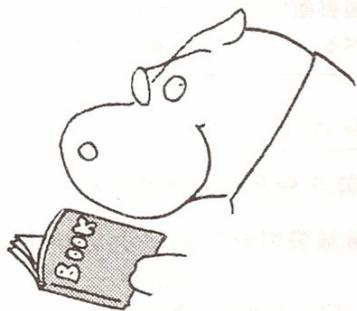
参加しよう

2月6、7、8日、20日、東京都市町村立図書館長協議会主催で「平成19年度 東京都多摩地域公立図書館大会」が開催されます。次ページに「要項」から抜粋を載せましたが、参加対象に(図書館員、市民)をうたい、プログラムにも市民を意識した内容がうかがえます。

2006年2月、第一回の大会が調布市で行われ、その第四分科会「館長協議会」で、「多摩地域の共同利用図書館の設置に向けて」という、除籍資料再活用プロジェクトの提案が発表されたもの

です。その結果を踏まえ、市長会の補助も受けて、民間コンサルタント会社が実現に向けた調査をしている現状にあるわけです。今回の図書館大会プログラムには、直接私たちの課題に関わるものはないようですが、主催者の呼びかけにこたえ、ぜひそれぞれの分科会に参加していきたいと思えます。

各分科会のプログラム、発表の詳細などは各市町村の図書館にお尋ねください。



平成19年度 東京都多摩地域公立図書館大会

※趣 旨 (略) 多摩地域の図書館が相互に連携し協力し合い、情報交換をすることが従前にも増して求められている。本大会は、今日的課題を共有する図書館職員の研鑽・交流の場として、また市民との共同研究の場として開催する。

※主催 東京都市町村立図書館長協議会

※後援 東京都市教育長会、東京都西多摩郡町村教育長会、(社)日本図書館協会

※会期 平成20年2月5日(火)、6日(水)、7日(木)、20日(水)

※会場 国分寺市立いずみホール、武蔵野スイングホール、府中市郷土の森博物館

※対象 図書館職員及び市民等とする。 ※参加費 無料

一般市民の方は、当日直接会場へ。ただし、第5分科会「地域資料」参加希望の市民は、在住地の図書館に1月18日(金)までにお申込みを。

開会式 9:45 10:00

12:00 (受付 13:00) 13:30

16:30

第1日	開 会 式	<p style="text-align: center;">全体会 開会式</p> <p style="text-align: center;">基調講演: 辻 由美 氏</p> <p style="text-align: center;">作家・翻訳家</p> <p style="text-align: center;">『図書館とわたし』</p> <p style="text-align: center;">国分寺市立いずみホール(定員 370 人)</p>	休 憩	<p style="text-align: center;">第1分科会: 児童サービス</p> <p style="text-align: center;">多摩地域の児童サービスは今 ～実践報告事例から 明日を模索する～</p> <p style="text-align: center;">国分寺市立いずみホール(定員 370 人)</p>
-----	-------------	--	--------	--

受付 13:00 13:30

16:30

第2日		/	休 憩	<p style="text-align: center;">第2分科会: 障害者サービス</p> <p style="text-align: center;">よい音訳者を育てるには～ 質のよい音訳を目指して</p> <p style="text-align: center;">利用者、音訳者、図書館の協力を考える</p> <p style="text-align: center;">国分寺市立いずみホール(定員 370 人)</p>
-----	--	---	--------	---

受付 9:30 10:00

12:00 (受付 13:00) 13:30

16:30

第3日		<p style="text-align: center;">第3分科会: 館長協議会</p> <p style="text-align: center;">『著作権と図書館』</p> <p style="text-align: center;">武蔵野スイングホール(定員 140 人)</p>	休 憩	<p style="text-align: center;">第4分科会: レファレンスサービス</p> <p style="text-align: center;">レファレンスっておもしろい</p> <p style="text-align: center;">図書館で調べる/インターネットで調 べる 武蔵野スイングホール</p>
-----	--	---	--------	---

受付 10:00 10:30

12:00 (受付 13:00) 13:30

16:30

第4日		<p style="text-align: center;">第5分科会: 「地域資料」</p> <p style="text-align: center;">参加される方のための見学会</p> <p style="text-align: center;">(見学だけの受付は行いません)</p> <p style="text-align: center;">府中市郷土の森博物館(定員 80 人)</p>	休 憩	<p style="text-align: center;">第5分科会: 地域資料</p> <p style="text-align: center;">地域資料を活かす図書館・博物館</p> <p style="text-align: center;">-地図資料を中心に-</p> <p style="text-align: center;">府中市郷土の森博物館(定員 80 人)</p>
-----	--	--	--------	---

(大会開催要項から、スペースの関係で一部省略)